

科目コード	20305	区分	専門基礎科目		実務経験のある教員等による授業科目				
授業科目名	次世代教育学 [教育経営学科用]	担当者名	畠中要輔/鈺悠介/大野呂浩志/小川智勢子/濱嶋幸司/渡邊亮/竹下厚志/伊藤仁美		○				
		実務経験との関連	担当者の中でアナウンサー、特別支援学校教員、小学校教員、高等学校教員、舞台俳優としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	1	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、時代が求める、次世代の教育をになう「教師」育成のために、学校教育の現代的課題に焦点を当て学校教育の目的、内容、方法及び教師に関わる基本的問題について考察することを目的とし、学修成果として、教職に対する理解を深めることができるようになります。

<授業の到達目標>

次世代の教育を担う「教師」に必要な資質能力を身につけるために、現代的教育課題等に対する探究心や学び続ける意識を常に持ち、主体的に考え、解決しようとする態度を身につけることを目標とします。

<授業の方法>

講義内においてレポートを作成し提出することを、出席確認としても扱います。・授業形態は、講義形式だけではなく適宜グループワークやICT機器を活用したプレゼンテーション等の様々な形式を取り入れた授業を行います。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・演習に臨む意欲・姿勢・態度 20%、発表資料（プレゼンテーションの内容と方法・技術） 30%、レポート 50%により判断。
 ※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力ですので、各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義と演習中における姿勢を重視して評価します。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼします。出席の管理は各回の担当教員が行います。

<教科書>

※特にありません。授業内で資料を配布します。

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	次世代教育学で学ぶ事	授業の概要、教育経営学科プロジェクト「スクールフェス」について
2	次世代教育を考える1	授業、先生について考えてみよう（理想の教師、楽しい授業）
3	次世代教育を考える2	自分達の体験してきていない学校を見てみよう
4	次世代教育を考える3	授業案を考えてみよう（自由な発想、学びについて）
5	次世代教育を考える4	チーム決め、夢の授業、探求学習授業の作り方
6	次世代教育を考える5	チームビルディング、自分の探究したい学びとは
7	学校現場を学ぶ1	小学校見学事前講座
8	学校現場を学ぶ2	小学校見学事前講座
9	学校現場を学ぶ3	小学校見学
10	学校現場を学ぶ4	小学校見学の振り返り、模擬授業について
11	授業を経験する1	模擬授業1 授業準備
12	授業を経験する2	模擬授業2 模擬授業実施
13	授業を経験する3	模擬授業の振り返り、本番指導案づくり
14	スクールフェス授業作り1	授業案チームプレゼン
15	スクールフェス授業作り2	振り返り、本番指導案づくり、備品購入についてチームで計画を立てる
16	スクールフェス模擬授業1	スクールフェス 模擬授業準備
17	スクールフェス模擬授業2	スクールフェス 模擬授業
18	スクールフェス模擬授業3	スクールフェス 模擬授業
19	スクールフェス1	スクールフェス準備
20	スクールフェス2	スクールフェス振り返り
21	地域課題探求1	地域課題探求
22	地域課題探求2	地域課題探求発表
23	表現教育	表現教育ワークショップ
24	表現教育	表現教育ワークショップ
25	表現教育	表現教育ワークショップ
26	表現教育	表現教育ワークショップ
27	表現教育	表現教育ワークショップ
28	表現教育	表現教育ワークショップ
29	表現教育	表現教育ワークショップ
30	表現教育	表現教育ワークショップ

科目コード	24104	区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	異文化コミュニケーション論 [英語教員・日本語教師希望者 限定]	担当者名	細井 健			○			
		実務経験との関連	高等学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

グローバル化が進む現在、異文化を背景として持つ相手と接触する機会も増えていきます。この授業は、まず自分を知り、次に相手の文化を理解し尊重する態度を身につけることを目的とします。そして様々な事例を読んだり、活動や実践に取り組んだりすることから、異文化理解および異文化コミュニケーションの意義や方法を学びます。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCを持参の上、臨んでください。受講者多数の場合は英語教員免許または日本語教員資格の取得予定者、および受講意欲の高い学生を優先します。

<授業の到達目標>

①異なる文化背景を持つ人々と協力できる関係をどのようにすれば築けるかが理解できる。②相手の文化を知り、それを尊重する態度を身に付ける。③自分の持つ価値、支える背景文化に気づき、世界（特に英語圏）の価値観や、その背景となる社会・文化が理解できる。

<授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示）(2) グループワーク（学習内容に関する教え合い）(3) ディスカッション（問いに対する回答）(4) 省察活動（まとめと発表）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題への取り組み・意欲30%、レポート課題 50%、まとめテスト 20%

<教科書>

原沢伊都夫（2013）
異文化理解入門
研究社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	授業の進め方と異文化理解の意義について考える。
2	文化とは①	文化の定義について学び、自分の文化を振り返る。
3	文化とは②	私たちが属している文化に気づき、そこから異文化とは何か考える。
4	異文化適応①	私たちが異文化の中におかれた時、どのように適応していくのか、異文化適応の理論を学ぶ。
5	異文化適応②	ゲームを行い、異文化に接触したときの疑似体験をする。その体験から感じたことを話し合う。
6	視点を変える	いくつかの活動を通じて、視点を変える練習をする。
7	ステレオタイプ	自分が持っている固定観念に気付く活動を行う。また、固定観念を持つ理由を学ぶ。
8	差別と異文化理解	映像資料を視聴して、差別が起こる原因について考える。
9	世界の価値観	様々な価値観について知り、それについて考える。自分の価値観と他者の価値観を比較する。
10	異文化トレーニング	異文化を理解するトレーニングを1つ体験し、異文化理解の方法を知る。
11	異文化受容	異文化を受け入れるプロセスを学び、自分の異文化受容度を内省する。
12	自分を知る	自分を知るための簡単なテストや活動を行う。授業の最後に今日知った自分について発表する。
13	非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションにはどのようなものがあるか学び、自分はどのような非言語コミュニケーションをしているか内省する。
14	コミュニケーションスタイル	自分のコミュニケーションスタイルを知る。また、相手を尊重するコミュニケーションの方法を考える。
15	まとめ	多文化共生社会に参画するために、異文化理解・異文化コミュニケーションを役立てるとは。

科目コード	65020	区分	専門基礎	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	実践英文法（基礎）	担当者名	井上 聡	○					
		実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、大学入試の基礎となる英文法への理解を深め、英語学習の方略を固めることです。事前課題（整序問題）をもとにグループ教え合いを行い、解説を傾聴後、理解度確認テストで「わかる」「わからない」を区別します。この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCまたはタブレットを持参の上、臨んでください。中高英語免許取得を主専攻とする学生にとっても、副専攻とする学生にとっても、アクティブ・ラーニングの醍醐味を体験できる貴重な機会となるでしょう。

<授業の到達目標>

1. 事前課題（調べ学習）に粘り強く取り組むことができる。¥n2. 活発な意見交流を通してグループワークに貢献できる。¥n3. 理解度確認テストで高いスコアを残すことができる。

<授業の方法>

事前課題の教え合い（50分）¥n解説の傾聴（30分）¥n意見交換（10分）¥n※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、小テスト 40%、グループワーク 10%、意見交換 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、教材の使い方、予行演習
2	大学入試問題の理解と説明(1)	主語の考え方
3	大学入試問題の理解と説明(2)	目的語の考え方
4	大学入試問題の理解と説明(3)	補語の考え方
5	大学入試問題の理解と説明(4)	動詞句の考え方
6	大学入試問題の理解と説明(5)	受動態の考え方
7	大学入試問題の理解と説明(6)	法助動詞の考え方
8	大学入試問題の理解と説明(7)	名詞節の考え方
9	大学入試問題の理解と説明(8)	形式主語構文の考え方
10	大学入試問題の理解と説明(9)	不定詞の考え方
11	大学入試問題の理解と説明(10)	分詞の考え方
12	大学入試問題の理解と説明(11)	関係詞の考え方
13	大学入試問題の理解と説明(12)	副詞節の考え方
14	大学入試問題の理解と説明(13)	否定の考えかた
15	大学入試問題の理解と説明(14)	比較の考え方

科目コード	65021		区 分	専門基礎科目		実務経験のある教員等による授業科目				
授業科目名	実践英文法（応用）		担当者名	井上 聡		○				
			実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択	

<授業の概要>

本授業は、実践英文法（基礎）のステップ講座であり、前期授業内容（整序問題演習）の発展編となります。協働学習を通して、さらに難度の高い英文の解析力と他者への説明力を養います。成績評価は、事前課題（演習課題の出来栄）、協働学習への態度、理解度確認テスト、意見交換の質を軸に行います。この授業はブレンド型で行われますので、必ずPCを持参して臨んでください。高等学校で英語指導を行うためのスキルを養う絶好の機会となるでしょう。

<授業の到達目標>

1. 事前課題（整序問題演習）に粘り強く取り組み、詳細なノートを作成・提出できる。¥n 2. 協働学習で教え合いを行い、難度の高い構文解析を説明できる。¥n 3. 理解度確認テストを受験し、高い理解度を残すことができる。¥n 4. 意見交換の場で、自身の学びを適切に言語化できる。

<授業の方法>

教え合い（50分程度） ¥n 解説の傾聴（30分程度） ¥n 意見交換（10分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、理解度確認テスト 40%、意見交換 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	シラバス説明、デジタル協同学習の練習
2	英文の構造解析(1)	主語構文
3	英文の構造解析(2)	目的語構文
4	英文の構造解析(3)	補語構文
5	英文の構造解析(4)	動詞句構文
6	英文の構造解析(5)	受動態構文
7	英文の構造解析(6)	法助動詞構文
8	英文の構造解析(7)	名詞節構文
9	英文の構造解析(8)	It構文
10	英文の構造解析(9)	不定詞構文
11	英文の構造解析(10)	分詞構文
12	英文の構造解析(11)	関係詞構文
13	英文の構造解析(12)	副詞節構文
14	英文の構造解析(13)	否定等
15	まとめ ※解説あり	比較構文

科目コード	65022		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	リーディング・スキル（基礎） [英語教員希望者限定]		担当者名	井上 聡			○		
			実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業はオンデマンド型で実施し、英検2級レベルで、英文の速読・精読力と語彙力・構文解析力を強化します。Google Classroomを通して配信された事前課題に取り組み、課題の提出・採点・返却後に理解度確認テストを受験し、その結果に基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質の3点に基づいて成績評価を行います。

<授業の到達目標>

1. 授業動画を活用し、事前課題（英検2級の長文読解）に粘り強く取り組むことができる。2. 理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。3. 事前課題と理解度確認テストを通して得た学びを「意見交換」の場で言語化できる。 ※授業はすべてGoogle Classroom上で行います。

<授業の方法>

1. 事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出） ※授業日の前日 2. 理解度確認テスト（Google Form） ※授業日のみ 3. 意見交換（Google Classroom） ※授業日のみ

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 30%、Review Test 20%、意見交換 20%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Generations Helping Each Other	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
2	Metal Foam	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
3	A New Type of Chocolate	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
4	A New Way to Use a Computer	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
5	Review 1	Review Test_01実力テスト_01
6	The Price of a Song	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
7	A Model Tourist Town	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
8	The Mysterious Mummies	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
9	Female Pioneers	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
10	Review 2	Review Test_02実力テスト_02
11	Counting Every Children	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
12	Smart Stickers	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
13	Bibliotherapy	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
14	Bringing Back Ancient Plants	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
15	Review 3	Review Test_03実力テスト_03

科目コード	24201	区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	比較文化論	担当者名	竹下 厚志			○			
		実務経験との関連	高等学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	なし

<授業の概要>

異文化理解入門です。私たちは“様々な文化”の中で生活しています。その文化とはいったいどのようなことを指すのかについて、私たちの日常生活から改めて見つめていきます。そして、異文化は自分(たち)の文化とどのように違うのかについて理解を深め、皆さんが“地球市民”として生きていくために必要なことを一緒に考えていきたいと思います。

<授業の到達目標>

・文化とは何を指すのかについて理解している。・自分に影響を与える(与えてきた)文化とは何かについて理解している。・他者に影響を与えている(与えてきた)と思われる文化について多面的に理解している。・異文化適応に必要な方略を身につけている。

<授業の方法>

一部講義も行いますが、多くは皆さんが与えられたタスクに対して、一人で考えたり、ペア・グループで意見交換したりしながら授業を進めていきます。また、発表場面を随時設定します。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業参加度30% レポート等の課題30% 発表40%

<教科書>

特になし

<参考書>

八代京子 町恵理子 小池浩子 吉田友子(2022年4月20日)

異文化トレーニング

三修社

原沢 伊都夫(2021年12月10日)

異文化理解入門

研究社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	自己紹介、外国人とのかかわり、日本文化、他国のイメージ
2	多文化と日本文化の比較分析(発表)①	衣食住を中心に他国と日本の類似点・相違点を調べて整理し発表する。
3	多文化と日本文化の比較分析(発表)②	衣食住を中心に他国と日本の類似点・相違点を調べて整理し発表する。
4	異文化コミュニケーション①	私の文化ーあなたの文化
5	異文化コミュニケーション②	見える文化ー見えない文化、パラダイムシフトー交渉トレーニング
6	コミュニケーション①	内容面と関係面、非言語コミュニケーション
7	コミュニケーション②	低コンテクストー高コンテクスト、自己開示ー相互コミュニケーション
8	見えない文化①	価値観、集団主義ー個人主義
9	見えない文化②	権力格差、差別意識
10	異なる文化のとらえ方①	ステレオタイプ、カテゴリー化、差別意識
11	異なる文化のとらえ方②	自文化中心主義ー文化相対主義
12	演習	異文化適応トレーニング
13	スピーチまたはプレゼンテーション①	これからの「私の文化」
14	スピーチまたはプレゼンテーション②	これからの「私の文化」
15	リフレクション	振り返りレポート

科目コード	24200	区分	専門基礎科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	英語文法	担当者名	井上 聡	○					
		実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、英文法について高校入試や大学入試レベルでの理解を深め、中高英語教員として教壇に立つための素地を構築することです。指導範囲・内容・レベルが広範かつ高度であるため、オリジナル教材とデジタル解説教材を用い、オンデマンド形式で実施します。課題提出、採点・返却、理解度確認テスト、意見交換の順に進めますので、しっかり時間管理を行い、個人差を解消しましょう。学修成果としては、事前課題の精度、小テストのスコア、意見交換の質を求めます。なお、この授業は中高英語教員免許取得のための必修科目ですので、教職課程を履修していない学生による他学科履修についてはお断りさせて頂く予定です。

<授業の到達目標>

1. 長時間の事前学習に粘り強く取り組むことができる。Yn 2. 理解度確認テストで高得点を残すことができる。Yn 3. 授業後の意見交換において「学びの振り返り」ができる。

<授業の方法>

1. 例題・類題演習の提出（90分程度）Yn 2. 採点・返却Yn 3. 提出課題の修正（1時間程度）Yn 4. 理解度確認テスト（30分程度）Yn 5. 意見交換（10分）Yn※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習 30%、理解度確認テスト 30%、意見交換 10%、期末試験 30%

<教科書>

井上聡（2022年4月3日）

これからの英語教師のための深くて苦い英語文法
一粒社

特に指定しない

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	高大接続の観点から考える文法理解(1)	英文の構造
2	高大接続の観点から考える文法理解(2)	意味と語順
3	高大接続の観点から考える文法理解(3)	基本時制
4	高大接続の観点から考える文法理解(4)	完了時制
5	高大接続の観点から考える文法理解(5)	法助動詞
6	高大接続の観点から考える文法理解(6)	仮定法
7	高大接続の観点から考える文法理解(7)	文末焦点と態
8	高大接続の観点から考える文法理解(8)	不定詞
9	高大接続の観点から考える文法理解(9)	動名詞
10	高大接続の観点から考える文法理解(10)	分詞
11	高大接続の観点から考える文法理解(11)	比較
12	高大接続の観点から考える文法理解(12)	関係詞(1)
13	高大接続の観点から考える文法理解(13)	関係詞(2)
14	高大接続の観点から考える文法理解(14)	接続詞と前置詞
15	高大接続の観点から考える文法理解(15)	期末試験

科目コード	65023		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	リーディング・スキル（応用） [英語教員希望者限定]		担当者名	井上 聡			○		
			実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業はオンデマンド型で実施し、英検準1級レベルの英文の速読・精読力に加え、同レベルの語彙・構文解析力を強化します。事前課題（読解・語彙・文法のノートテイキング）に取り組み、理解度確認テストを受験し、その結果に基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質の3点に基づいて成績評価を行います。

<授業の到達目標>

1. デジタル解説動画を活用し、事前課題（長文読解）に粘り強く取り組むことができる。2. 理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。3. 事前課題と理解度確認テストを通して得られた学びを「意見交換」の場で言語化できる。
※授業中のデータ共有はすべてGoogle Classroomで行います。

<授業の方法>

1. 事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業前日まで 2. 理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ 3. 意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 30%、Review Test 20%、意見交換 20%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	"Drink Responsibly" Messages	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
2	Dog Colors	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
3	Lightning Strikes and Ships	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
4	Minimalism: Is Less Really More?	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
5	Review 1	Review Test_01実力テスト_01
6	The Thaba-Tseka Development Project	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
7	The Uncertainties of Celiac Disease	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
8	REDD+	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
9	Summer Jobs	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
10	Review 2	Review Test_02実力テスト_02
11	Stranded Whales	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
12	Airplanes and Germs	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
13	Young People and Sports	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
14	Medical Voluntourism	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
15	Review 3	Review Test_03実力テスト_03

科目コード	24303		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	上級英語文法 [英語教員希望者限定]		担当者名	井上 聡			○		
			実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、難度の高い英文法の知識を網羅型で学習し、英検準1級以上、TOEICスコア785点以上の英語力を身に着けることです。デジタル解説教材とオリジナル教材を活用して事前に問題点を明らかにし、文法問題演習を繰り返し、オンライン試験を通して理解度を高めましょう。学習成果としては、デジタル教材の活用力、理解度確認テストのスコア、意見交換の質を求めます。なお、この授業はオンデマンド型で行いますので、課題提出やテスト受験等の期限を必ず守ってください。

<授業の到達目標>

1. 事前学習（ノートテイキング）に粘り強く取り組み、「分かること」と「分からないこと」を区別できる。2. 理解度確認テストで高い正答率を残すことができる。3. 意見交換の場で、学びの内容を適切に言語化できる。

<授業の方法>

1. 事前課題（テキスト8ページの予習）（2時間程度）2. 採点・返却3. 理解度家訓テスト（30分程度）4. 意見交換（5分）※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、理解度確認テスト 30%、意見交換 10%、期末試験 30%

<教科書>

井上聡（2022年4月）

上級英語文法：攻略ポイント210※継続履修できる学生にのみ、直接配布します。

一粒書房

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	シラバス説明、シミュレーション（教科書・デジタル教材の使い方）
2	動詞の語法①動詞の語法②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
3	動詞の時制法助動詞	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
4	態の変換不定詞①	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
5	不定詞②分詞	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
6	動名詞関係詞①	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
7	関係詞②仮定法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
8	比較表現①比較表現②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
9	名詞の語法代名詞の語法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
10	形容詞の語法副詞の語法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
11	接続詞①接続詞②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
12	前置詞①前置詞②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
13	疑問・否定・倒置・強調・一致まとめ	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
14	総復習	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
15	期末試験・まとめ	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換

科目コード	31400	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	学校経営と学校図書館	担当者名	浅田 栄里子			○			
		実務経験との関連	高等学校教員、図書館司書教諭としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館をどのように運営していくかについて、その具体的な方法を理解することができる。また、学校図書館を活用して行う読書活動や学習等について運営計画を立案するとともに、具体的な指導を指導者の立場として展開することができる。

<授業の方法>

スライド資料やワークシート等を用いて授業を進める。多くの授業において個人で取り組む演習やグループで取り組むワークが中心となるので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・態度 30%、課題および提出物 30%、特別課題 40%に基づき評価する。

<教科書>

朝比奈大作監修

「改訂 学校経営と学校図書館（司書教諭テキストシリーズⅡ）」

樹村房

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス・学校教育法令と学校経営	授業のガイダンスと、学校経営がどのような法令等に基づいて策定されているかを理解する。
2	教育法令と学校図書館	学校教育にかかる様々な法令と学校図書館の位置づけを理解する。
3	学校図書館と学習指導要領	学習指導要領から学校図書館の位置づけを探し、教育課程とのかかわりを理解する。
4	学校図書館の機能と図書標準	学校図書館メディアの種類と、蔵書の標準を知り、学校図書館の機能について考える。
5	学校図書館の運営	学校図書館運営に関わる業務を理解する。
6	学校図書館の運営	学校図書館運営計画を作成する①
7	学校図書館の運営	学校図書館運営計画を作成する②
8	学校図書館の運営	学校図書館運営計画を作成する③
9	学校図書館の運営	図書館だよりを作成する①
10	学校図書館の運営	図書館だよりを作成する②
11	学校図書館の運営	図書館だよりを作成する③
12	学校図書館の運営	学校図書館展示の工夫①
13	学校図書館の運営	学校図書館展示の工夫②
14	学校図書館の運営	学校図書館展示の工夫③
15	まとめ	学校における学校図書館活用の現状と課題を理解し、図書館運営の心構えをつくる。

科目コード	31401	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	学校図書館メディアの構成	担当者名	木戸 和彦／浅田 栄里子			○			
		実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員、図書館司書教諭としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校図書館は、読書センター・学習センター及び情報センターとしての機能を有している。学校図書館がその機能を十分発揮するためには、学校図書館メディアの構成に関して、収集、組織化、保存、提供などについて司書教諭が理解することが必要である。この授業は学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図ることを目的とする。また、この科目は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

①学校図書館メディアの種類と特性を理解することができる。②学校図書館メディアの選択と収集・構築について理解することができる。③学校図書館メディアの組織化を理解することができる。

<授業の方法>

基本的には講義形式であるが、「日本十進分類法」「日本目録規則」などは演習形式にて授業を行う。毎回の授業でレポート・課題を出題する。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。第15回の講義の中で確認テストを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 15%、中間試験 40%、期末レポート試験 45%に基づき評価する。

<教科書>

特になし

<参考書>

全国学校図書館協議会監修（2017.9.1）

学校図書館必携

悠光堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学校図書館メディアの意義	講義ガイダンスを含む
2	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの種類と特性
3	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（資料の選択、資料収集の方針）
4	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（収集のための情報源）
5	メディアコレクションの形成	蔵書構築、蔵書評価について
6	学校図書館の責務について	学校図書館の役割について
7	学校図書館メディアの組織化	分類の意義と機能
8	学校図書館メディアの組織化	日本十進分類法について
9	学校図書館メディアの組織化	件名標目表について
10	学校図書館メディアの組織化	日本目録規則について
11	学校図書館メディアの組織化	目録の機械化について
12	学校図書館メディアの組織化	分類と件名作業の実際
13	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の意義
14	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の演習
15	まとめ・確認テスト	学校図書館メディアの構成の展望

科目コード	31403		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	読書と豊かな人間性		担当者名	浅田 栄里子			○		
			実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員、図書館司書教諭としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

読書は人間形成において重要な意味を持つものであり、思考力の育成、豊かな心の育み、人間性の発達にかけがえのない営みでもある。読書という活動は、学習者自身の主体性の有無によって成立する。そのために校内の読書センターと積極的な読書推進活動の展開により、児童・生徒の読書の活性化を図る必要がある。そこで、本授業では、児童・生徒の発達段階に応じた読書指導や活動の在り方と司書教諭の任務について考察し、基本的な指導および活動の方法の体得を目指す。

<授業の到達目標>

1. 読書の目的と役割について理解することができる。¥n2. 読書指導の基礎や基本について理解することができる。¥n3. 目的に応じた多様な読書活動について理解を深め、実践することができる。

<授業の方法>

教科書に基づき授業を進めるが、グループワークや体験的な取り組みも行うので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40%、レポート・課題60%により総合的に評価する。

<教科書>

「探究 学校図書館学」編集委員会
探究 学校図書館学4「読書と豊かな人間性」
全国学校図書館協議会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	講義ガイダンスと人間形成に重要な意味をもつ読書について理解する。
2	読書教育の系譜	日本の読書教育の変遷を理解する。
3	読書指導と学校図書館	学校図書館と学校での読書指導について、法令も含めてその関係性を理解する。
4	子どもの読書環境	子どもの読書の実態と、学校図書館・公共図書館の現状について理解する。
5	発達段階に応じた読書指導	読書能力の発達と、発達段階に応じた読書指導のあり方について、理解する。
6	子どもと本を結ぶための方法1	読み聞かせとブックトーク、ストーリーリング
7	子どもと本を結ぶための方法2	読書感想文と読書感想画、朝の10分間読書
8	子どもと本を結ぶための方法3	読書へのアニメーションとビブリオバトル
9	子どもと本を結ぶための方法4	読書会とリテラチャーサークル
10	子どもと本を結ぶための方法5	紙芝居と読書集会、読書郵便、POPと本の帯の作成
11	各教科での読書指導・探究的な学習と読書指導	各教科での読書指導・探究的な学習と読書指導について、理解する。
12	読書活動の実例1	小学校、中学校での読書活動例を知り、その在り方を理解する。
13	読書活動の実例2	高等学校、特別支援学校での読書活動例を知り、その在り方を理解する。
14	読書活動の推進と司書教諭・学校司書	司書教諭、学校司書の職務と読書指導の推進について理解する。
15	まとめ	読書についてその役割を理解し、読書指導の基礎基本について実践的な活動としての理解を整理する。

科目コード	31402	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	学習指導と学校図書館	担当者名	小川 智勢子			○			
		実務経験との関連	小学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館を活用して行う学習（探究型学習・情報活用能力の育成）等について、指導者の立場として展開する方法を理解することができる。

<授業の方法>

教科書に基づき授業を進める。毎回課題を提示する。主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40%、レポート・課題60%により総合的に評価する。

<教科書>

「探求 学校図書館学」編集委員会（2020.9.25）
 探究 学校図書館学 第3巻 学習指導と学校図書館
 全国学校図書館協議会

<参考書>

文部科学省（2018/2/28）
 小学校学習指導要領解説 総則編
 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス・学校教育と学校図書館	学校教育における学校図書館の役割の概要を理解する。
2	学び方の指導の実際1	学校図書館の使い方指導の仕方を理解する。
3	学び方の指導の実際2	図鑑の使い方の指導の仕方を理解する。
4	学び方の指導の実際3	年鑑・百科事典の使い方の指導の仕方を理解する。
5	学び方の指導の実際4	新聞の活用の指導の仕方を理解する。
6	学び方の指導の実際5	インターネットの利用の指導の仕方を理解する。
7	学習指導に生きるブックトーク	ブックトークのやり方とその効用について理解する。
8	学習指導に生きるポップ	ポップの作成方法とその効用について理解する。
9	教科学習における学校図書館の活用1	国語科における学校図書館の活用について理解する。
10	教科学習における学校図書館の活用2	社会科・理科における学校図書館の活用について理解する。
11	総合的な学習の時間と学校図書館	総合的な学習の時間における学校図書館の活用について理解する。
12	学校図書館と合理的配慮	学校教育における合理的配慮の必要性和学校図書館の役割について理解する。
13	司書教諭と学校図書館司書の役割	学習指導における司書教諭と学校図書館司書の役割と連携について理解する。
14	これからの学校図書館の在り方	先進的な学校図書館の事例について理解する。
15	司書教諭が担う役割	学習指導と学校図書館における司書教諭が担う役割について理解する。

科目コード	21204	区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	英語科教育法 I (基礎)	担当者名	井上 聡			○			
		実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、英語科教育の過去と現在について理解を深め、これからの英語教育の方向性について自身の教育観を醸成することです。そのような資質を高めるため、本授業では、グループワークを軸として、英語教育理論、言語活動、教育実践に関する討論・発表が中心となります。事前課題の「問い」を通して問題を発見し、他者との意見交換を通して問題を解決し、プレゼンテーションや相互評価を通して、英語教師としての資質・能力を高めます。学修成果としては、協働性、批判的思考力、省察力、デジタル活用力を求めます。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCまたはタブレットを持参の上、臨んでください。中高英語免許取得を主専攻とする学生はもちろん、副専攻とする学生を力強く支援します。

<授業の到達目標>

1. 英語科教育の専門用語を深く理解し、体系化できる。2. 協同学習に主体的に参加し、多様な役割を担いつつ、グループ・ワークに貢献できる。3. 未来の英語教師として、自身の意見を適切かつ的確に発信できる。

<授業の方法>

グループ討論（30分）解説（30分）プレゼンテーション（30分）※授業はすべてGoogle Classroom上で行います。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%, 理解度確認テスト 30%, プレゼンテーション 20%, 意見交換 20%

<教科書>

JACET教育問題研究会（2017年11月30日）

行動志向の英語科教育の基礎と実践-教師は成長する-
三修社

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	シラバスの説明、シミュレーション（事前課題、グループワーク）
2	外国語教育の目的と意義	日本の外国語教育の方向性、CEFRの言語教育観
3	英語教育課程	教育課程と学習指導要領、日本の英語教育課程の今後の方向性
4	第二言語習得と教授法	SLA研究からの知見、教授法
5	学習者論	言語習得とは、自律と自立、学習者要因、英語学習に成功する学習者
6	英語教師論	教員として求められる資質・能力、言語教師の役割、英語教師の成長
7	まとめ	復習テスト
8	リスニングリーディング	基本概念とリスニング指導基本概念とリーディング指導
9	スピーキングライティング	基本概念とスピーキング指導基本概念とライティング指導
10	技能統合型の指導：インタラクション	基本概念、協同学習
11	文法指導語彙指導	基本概念と文法指導基本概念と語彙指導
12	文法指導語彙指導	基本概念と文法指導基本概念と語彙指導
13	PPPF演習（1）	指導案の作成（概要）
14	PPPF演習（2）	指導案の作成（概要）
15	プレゼンテーション	私が目指す英語教師像

科目コード	51010	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	教育実習事前・事後指導(英語)《通年》	担当者名	竹下 厚志/伊藤 仁美			○			
		実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。						
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習は、教職の現場を自ら体験することによって教師像を確立するという重要な意味を持っている。事前指導では、実習生に求められる任務を遂行する力や授業を行う技術の習得がねらいとする。事後指導では、受講生の実習経験を題材としてディスカッションを中心とした授業を行う。各受講生が教育実習期間中に経験した様々な事例を教材とし、教職に対する理解を深める機会とする。

<授業の到達目標>

①事前指導においては、教育実習において必要な心構え、指導案作成の技術を身に付ける。②事後指導では、実習中に経験したことに基づいた授業の報告やディスカッションを通し、各自が目標とする教師像を確立する。

<授業の方法>

(1) 講義(教員による解説と問いの提示) (2) グループワーク(学習内容に関する教え合い) (3) ディスカッション(模擬授業を対象とした問いに対する回答) (4) 省察活動(まとめと発表)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

参加姿勢・貢献 20%、指導案作成・模擬授業 50%、教育実習・実習報告 30% (一定の水準に達していない学生は、教育実習を認めない場合がある。)

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教育実習に臨んで	教育実習の目的、心構え、準備
2	授業観察	DVD教材を利用した授業観察、授業分析
3	授業準備	教科書分析・指導案作成準備
4	指導案の作成(1)	指導案作成の手順
5	指導案の作成(2)	指導技術の工夫
6	模擬授業(1)	模擬授業を実施
7	模擬授業(2)	模擬授業を実施
8	模擬授業(3)	模擬授業を実施
9	模擬授業(4)	模擬授業を実施
10	事前指導のまとめ	事前指導で学んだ内容の確認
11	教育実習の報告①	実習報告とディスカッション
12	教育実習の報告②	実習報告とディスカッション
13	教育実習の報告③	実習報告とディスカッション
14	教育実習の報告④	実習報告とディスカッション
15	事後指導のまとめ	実習全体の振り返り

科目コード	53012	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	教職実践演習(中学校・高等学校) [英語]	担当者名	竹下 厚志/伊藤 仁美			○			
		実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。						
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、これまでに受講した授業と教育実習の振り返りを通してこれまでの学びの内容を確認し、英語教師としての自己成長を続けることのできる能力の習得を目指します。模擬授業、事例研究、新しい指導技術の実践を通して教育現場で必要とされる学級経営力、生徒指導力、英語教師として教育実践力を高めます。PCを持参のうえ臨んでください。

<授業の到達目標>

①英語力を高め自己研鑽をするなど『英語教師の成長』について考え見通しを立てることができる。②教育実習の経験を踏まえたうえで様々な教育課題を建設的に批判し、解決に向けての具体案を提示できる。

<授業の方法>

(1) 講義(教員による解説と問いの提示) (2) グループワーク(学習内容に関する教え合い) (3) ディスカッション(模擬授業を対象とした問いに対する回答) (4) 省察活動(まとめと発表)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

①授業への積極的な参加姿勢・グループ活動での貢献 20%、②発表(模擬授業) 50%、③課題・レポート 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教職実践演習とは	教職実践演習の目的、教師に求められる資質・能力と教育実践力
2	英語教育の理論と政策	教授法の変遷と日本の英語教育
3	内容・題材論	言語の目覚め・創造性：詩について
4	指導技術(1)	語彙指導
5	指導技術(2)	リーディング指導
6	指導技術(3)	リスニング指導とつまずき
7	指導技術(4)	スピーキング指導・音読：他教科との連携
8	内容・題材論	教材を開発するとは
9	授業運営	教室内談話の分析
10	授業運営	協同学習、ペア・グループワーク
11	授業運営	様々な評価
12	学習者・教師論	動機づけ・自己効力感
13	学習者・教師論	教師教育
14	学習者・教師論	自律的学習者を育むために
15	まとめ	教育実践力磨き続けるために